

一一〇一四年度 健和看護学院 国語入試問題

(その一)

◆◆◆◆ 解答は、すべて解答用紙に書くこと。

一 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい

①読書をすること、あるいは学問をすることの意味とは何なのだろうか。一般には、これまで知らなかつた知識を得ることという答えが返つてきそうだが、読書の「意味」、学問の「意味」というものを考えたとき、その答えだけでは十分ではないだろと私は考えている。読書によって、あるいは学ぶということによつて、確かに新しい知識が自分のものになる。しかし読書や学問をするものの「意味」は、端的に言って、自分がそれまで何も知らない存在であつたことを初めて知る、そこに「意味」があるのだと思う。ある知識を得ることは、そんな知識も持つていなかつた「私」を新たに発見することなのだ。(中略)

自分の知つてゐることは世界のほんの一部にしか過ぎないのだと自覚する、それは□I「自分」という存在の相対化ということである。それを自覚しないあいだは、自分が絶対だと思いがちである。自分だけしか見えていない。世界は自分のために回つているような□a「サツカク」を持つ。自分は「まだ」何も知らない存在なのだと知ることによつて、相手と自分との関係も見えてくるだろし、世界のなかで自分が存在することの意味も考へることになるだろう。私は「まだ」何も知らないと自覺することは、いまから世界を見ることができることもある。②それが学問のモチベーションになり、駆動力になる。

「何も知らない自分」を知らないで、ただ日常を普通に生きていることに満足、充足しているところからは、□b「敢えてしんどい作業を□c「トモナう」学問、研究などへの興味もモチベーションも生まれないのは当然である。□II「自分」は、ああ、自分は実は世界のほんのちっぽけな一部しかこれまで見てこなかつた、知つていなかつたと実感できれば、□III「自分がこれまで知らなかつた世界がいかに驚異に満ち、知る喜びにあふれていることを垣間見ることがでできれば、おのずから知ることに対する敬意、リスペクトの思いにつながるはずである。(中略)

「他者」を知ることによつて初めて「自己」というものの意識が芽生える。「自我のめばえ」は、「他者」によつて意識される「自己」への視線である。自分を外から見ると、この経験、これはすなわち学ぶということの最初の経験なのである。先に述べたように、読書をするということは、「こんなことも知らないかった自分」を発見すること、すなわち自分を客観的に眺めることがある。「自己」の相対化であると言つてもいい。

こんなことを考えてゐる人がいたのかと思う。こんなひたすらな愛があつたのか、こんな辛い別れがあるのかと、小説に涙ぐむ。それらは「読む」という行為の以前には知らなかつた世界ばかりである。それを知るということは、すなわち「それを知らない自分」を知るということである。一冊の書物を読めば、その分、自分を見る新しい視線が自分のなかに生まれる。「自己」の相対化とはそういうことである。勉強をするのは、③そのためである。読書にしても、勉強にしても、それは知識を広げるということも確かにその通りだが、もっと大切なことは、自分を客観的に眺めるための、新しい場所を□d「獲得」するという意味のほうが大きい。小さな子が他人と出会つて初めて自分に気づいたように、私たちには「自己」をいろいろな角度から見るための、複数の視線を得るために、勉強をし、読書をする。それを□e「カク」と、ひとりよがりの自分を抜け出すことができない。「他者」との関係性を築くことができない。(『知の体力』永田和志)

問一 二重傍線部 a～e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

問二 傍線部①について、一般的な答えと筆者の考える答えをそれぞれ本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

ア しかし イ さて ウ では エ すなはち オ そして
問三 空欄 I～III にあてはまる適当な言葉を後のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

問四 傍線部②とは、どういうことか。簡潔に答えなさい。

問五 傍線部③とあるが、筆者は何のためだと考えているか。本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

二 次の空欄に適当な漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

(その二)

- 1 天変地□
- 2 品行□正
- 3 問答□用

三 次の1～3の慣用句・ことわざ・故事の（）にあてはまる適当な言葉を漢字一字で答えなさい。

- 1 （　）の道はへび
- 2 ひょうたんから（　）が出る
- 3 獅子身中の（　）

四 次の語の反対語を、それぞれ後の語群から一つ選び、漢字で答えなさい。

- 1 損失
- 2 尊大
- 3 展望

（語群） ケンキョ ケシキ リエキ ソンガイ カイコ タイダ

五 傍線部の例文における意味として最も適当なものを、①～⑤のうちから選び記号で答えなさい。

1 彼女はすべてにぬかりがなかつた。

- ①抜け目なく準備していた ②冷静で欠点がなかつた
④気を回して持つて来ていた ⑤先走つて買っておいた
③当然だと予想していた

2 彼はおもむろに脚を組み替えた。

- ①力強く ②ゆっくりと ③重々しく ④とつぜん ⑤優しく

3 期せずして同じつり革を握ったことから僕たちははじまつた。

- ①期待せず ②ほっとして ③急いで ④無言で ⑤偶然に

六 次の文の「」内の言葉を、正しい敬語に直しなさい。

- 1 これは素晴らしい本なので、ぜひ「ご拝読なさつて」ください。
- 2 父が本日伺いたいと「おっしゃつてい」ます。
- 3 つまらないのですが、この品を「いただいて」ください。

